

今年の節分は2月3日(土)でした。

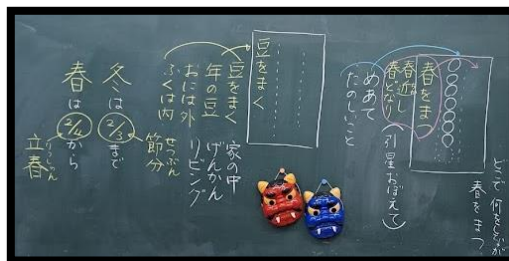
新聞やテレビ等でもコロナ禍が明け、久しぶりに神社で行われた豆まきの様子を伝えていました。翌日2月4日(日)は立春で、暦の上で「春」になりました。

保育園や幼稚園、ご家庭や学校で、豆まきをした経験を思い起こしました。「先生が鬼になった」

「新聞紙丸めて豆を作った」「豆を入れるものを折り紙で作った」などたくさんの思い出がでてきました。また、「豆を食べた」「柗飾った」「めざしの頭も」「恵方巻き食べた」など、様々なことを教えてくれました。

授業では「節分に食べる豆を『年の豆』とも言う」「『恵方巻き』は、季語だという人と、まだ季語になってはいないのではないかとという人と両方の考え方があります。あと少ししたら完全に季語になるかも」と季語について話した後、俳句作りをしました。節分に関する児童の俳句を紹介します。

- 『豆まいた後の掃除はお母さん』 『なまけおにこっちこないで鬼は外』
 『節分の豆ひとつぶに思いこめ』 『恵方巻き5分は静かに鬼やらい』
 『まちがえて13個食べた年の豆』 『豆まきに大谷が来て鬼号泣』



暦の上では立春を過ぎてもまだまだ季節は冬です。

東京にも雪が降りました。夜には雷も鳴りました。「雪に対する感情で、こどもか大人かが分かる」という話を聞いたことがあります。大人は降雪による交通機関の乱れなどを心配するけれど、こどもは単純に雪を見て喜ぶということのようです。

小学校でも、広い校庭で雪遊びを満喫している姿が見られました。雪を教室に持ち込んで、ベランダに置かれたかわいい雪だるまがいました。校庭には、泥だらけの大きな雪だるまがありました。中には頭と胴体が分かれてしまっただるまも…。



公園や校庭、家の前などで遊んだことを俳句にしてみました。

- 『雪降った土とまざってどろだるま』
 『すべり台雪がつもってすべれない』
 『春の雪はじめてさわったたん生日』
 『公園でお姉ちゃんと雪合戦』

こどもたちは、行事や遊びを楽しみ、それを十七音で表現しています。